

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 28日

事業所名 放課後等デイサービス事業所ココプレイス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	4		設置基準には遵守しているが、屋外含めて限られたスペースで対応しているため。付近の公園などを活用している。
	2	職員の配置数は適切である	1	4		設置基準には遵守している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	5		2階へは階段でいかなければならないが、現状支障なく対応できている。新規利用児童が必要ときは検討は必要と考えている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0		PDCAを繰り返して、よりよい計画や支援に繋げていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	不明1名	今回の評価表に関しては、職員と振り返りながら今後の支援に繋がられるように意識している。また必要に応じて保護者の意向をアンケートなどを活用して把握・活用していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		今回の結果に関しては、ホームページで公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	不明1名	現状第三者評価は実施していない。ただ、虐待防止や苦情解決のために第三者委員を設置している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0		外部研修・内部研修を含め実施している。今後も職員の資質向上のために実施していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		アセスメント、支援計画は毎年4月に作成している。保護者の意向を確認しながら、柔軟に計画の変更などを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		アセスメントを活用しながら、日々の支援に繋げている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0		職員会議やケース会議などを実施して、活動内容や支援内容をチームで建てている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0		職員会議やケース会議などを実施して、活動内容や支援内容が固定化しないように、子どもの成長・発達に即して考えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0		休日・長期休みしかできないことを計画しながら、集団・個別両面から支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		子どもの興味・関心などを意識して、日々の活動での子どもの発言などに留意しながら作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0		朝礼を行い、その日の児童対応などの確認をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0		終礼を行い、その日にあった出来事を新鮮なうちに共有し、問題解決に向かうことで、次の活動に繋がられるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		毎日の児童一人一人の支援内容などを記録している。それを踏まえて、支援の検討や改善に向けての話し合いをしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0		毎年4月の支援計画に合わせて、6ヶ月後・1年後にモニタリングを行い、保護者に確認をお願いしている。ただし、期間にとらわれずに、ニーズや状況に応じて見直しはできたらと考えている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	0		基本的に組み合わせの支援はできているが、より意識した支援は必要と感じる。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	基本、児童発達支援管理責任者が対応することが多いが、職員からの意見を集約したうえで参加しており、必要に応じては、よりふさわしい職員も同行してもらおうと考えている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	必要に応じて行っている。保護者との橋渡しに慣れるように、また共通理解の下、支援できるようにできるように考えている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4	現状、医療的ケアが必要な子どもはいないが、必要に応じて対応したい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2	事業所として、就学前施設とのかかわりは現在ないが、法人全体を含めてかかわりは行っている。ただより多くの内容を情報共有・相互理解していけたらと考える。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	事業所として、卒業児童の対応は現在ないが、法人全体をふくめてかかわりは行っている。また就学中から、実習などを通じて障害福祉サービス事業所などを通じて連携することは大切だと感じる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	利用児童の状況に応じて連携させてもらえたらと考えている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	現状、放課後児童クラブや児童館との交流はないが、コロナの状況次第で機会があればと考える。また外出などの中で、子どもに限らず、いろいろな人とかかわりが持てたらとも考える。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1	法人として参加している。状況に応じてより積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	送迎時や連絡帳などで日々の家庭・事業所での様子を伝えており、共通理解をもって取り組めるように努めている。保護者のニーズなどを含めて、今後も丁寧に取り組んでいきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	日々の活動の中で、児童の良い面や出来た面などを保護者に伝えられたらとの考えで支援している。お互い、より子どものことを知ることが出来るように協力していきたい。	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	契約時に保護者に運営規程、支援の内容、利用者負担等について伝えている。また利用者負担などについては、その時々が必要に応じて再度説明することで、行き違いないように気を付けている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	保護者の気持ちや児童の気持ちを大切にしながら、相談対応できるように努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	現状、父母会や保護者会などは実施していないが、保護者の意向などをとりに取り組んでいきたいと考える。現在コロナ禍で保護者参加の行事なども行っていないが、そのような場を設けて連携を図る機会ができたらと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	苦情が挙がった時には、その時の状況などを職員間で把握しながら事実確認を行うことなどを意識している。その上で、迅速かつ適切に対応できたらと考える、そう努めていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	年1回会報を発行している。また、必要に応じて保護者へ手紙を配布したり、連絡帳を使って伝えたりしており、今後も継続していく。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	普段から個人情報には注意している。ホームページや外部への個人情報が流出しないように今後も注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	児童一人一人の特性に合わせて声掛けを行うとともに、それぞれの家庭環境にも配慮しながら、かかわりを持てるようにしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	現在、コロナ禍の状況で地域住民を招待できるような行事は行っていないが、状況に応じて実施検討できたらと考えている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。より徹底するためにも、職員間でもマニュアルの共有や保護者への周知を行っていききたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	昨年11月に火災避難訓練を実施。3月にも予定している。繰り返し実施することで、児童への意識とともに、職員の対応の向上を目指したい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	虐待防止委員会の設置、山口県社会福祉士会主催の研修への参加、それに対しての職場内研修など実施している。それらを活用しながら、より虐待防止のために知識を理解・共有できるようにしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	虐待とともに身体拘束に関しての理解を職員と共有していく。現状、やむを得ず身体拘束をしなければならぬ児童はいないが、組織としての方針のもとに、今後必要ときには保護者と話し合いながら対応していこうと考えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	現状、食物アレルギーのある児童はいないが、新規児童対応時には、必ず保護者に確認するとともに、必要に応じて医師の指示に基づいて対応していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	児童のケガなどがあった場合には事故報告として挙げ、それに対して検討会議などは実施しているが、ヒヤリハットをより意識することで、未然に防げるような連携を取っていく。